

環境に優しい米づくり体験 2025

坂井市立三国南小学校
JA福井県坂井青壮年部三国地区三国支部
三国東部まちづくり協議会
三国木部まちづくり協議会

米

みんな

力を合わせた

つくり

稲刈り



田植え

スイーツ作り





もくじ

「農業への感謝を」 三国南小学校 校長 藤田 直浩	1
「米づくり体験をする意義」 JA福井県坂井青壮年部三国地区三国支部 支部長 川元 博幸	1
「米作り体験とお米について」 三国東部まちづくり協議会 会長 浅岡 辰雄	2
「米づくり体験を通して学ぶこと」 三国木部まちづくり協議会 会長 森下 喜文	2
「米づくりの体験を通じて環境について考えよう」 三国木部まちづくり協議会 環境部会長 東川 佳晴	3
お米ができるまで私達のきろく photo	
田植え	4~7
稲刈り	8~12
米づくりの思い出 感想文	13~18
調理実習（仮称）	19~21

「農業への感謝を」

三国南小学校 校長 藤田 直浩

稲刈り体験の圃場で数十年ぶりに「はさ場」を見ました。子どもの頃に見た、田んぼの脇に「はさ場」が立ち並び、刈り取った稲穂が布団のように無数にかけられていた光景を思い出しました。

「はさ場」を見かけなくなつて、ずいぶんと時が経ちました。ゴールデンウィークに田植えの手伝いをしたという子どもの話もほとんど耳にしません。たぶん、農業の機械化と大規模化が進み、子どもの手伝いなど必要でなくなつたのかもしれない。

そのような中、自らの手で苗を植え、一束ずつ稲を刈り取つてはさがけをする「米作り体験」は、子どもたちにとって農業のありがたさを感じることでできる貴重な体験であると思います。

今年度は、例年圃場としていたビオトープが改修のために使えず、開催が危ぶまれたと聞いています。しかし、子どもたちのために圃場を提供してくださった地域の方、そして、体験の準備とともに水の管理、除草、精米などの作業をしてくださったJ A福井県青壮年部と東部・木部まちづくり協議会のみなさまのおかげで無事実施することができました。心より感謝申し上げます。

今後も米作り体験が本校での伝統的行事として引き続き行っていきますよう、地域のみなさま、関係者のみなさまのご協力をお願い申し上げます。

「米づくり体験をする意義」

J A福井県坂井青壮年部三国地区三国支部

支部長 川元 博幸

小学生の皆さんが米づくり体験をする意義は、食と自然、そして人のつながりを実体験から学べる点にあります。田植えや稲刈りを

通して、米がどのように育ち、私たちの食卓に届くのかを知ること、普段何気なく食べているごはんへの感謝の気持ちが育まれたのではないのでしょうか。また、土や水、生きものに触れることで、自然環境の大切さや命の循環を実感できたことでしょう。さらに、仲間と協力して作業する中で、責任感や協調性、達成感を学べたことでしょう。

当青壮年部では、地域の自然と共生する農業の魅力を次世代へ伝える活動を行っています。米づくり体験教室は活動の大きな柱です。今後も小学生の皆さんに、食の大切さや環境を守ることの大切さを考える機会を提供できれば嬉しいことですし、持続可能な農業を目指す第一歩として、米づくり体験教室を継続して行いたいと考えております。



「米作り体験とお米について」

三国東部まちづくり協議会 会長 浅岡 辰雄

三国南小学校校下の木部地区、東部地区は福井県でも指折りの自然豊かな田園地帯に位置しています。「米作り体験」を通して児童の皆さんに米作りの大変さや収穫の喜びを感じ取っていただけたら嬉しく思います。

日本人にとって「お米」はただの主食ではなく、神話の時代から受け継がれた神聖な作物であり、文化や信仰、そして日本人の精神と深くつながっています。神前へのお供え（藤沢地区の神社祭りには必ず米を供えています）仏壇（法事の時）に供えるご飯、米で作られた日本酒、これらの風習の根底には「米は命の源、日本そのもの」と思われ、私たちのDNAに深く浸み込んでいます。

「いただきます」「馳走さま」という言葉には命を受け取る感謝と天地の恵みへの敬意が込められており、ご飯を食べることで自然や先祖、神々とながらみ、見えない力に守られながら私たちは生きていくと思われまます。食事する時にはすべての料理にまた、作っていただいた人（母親等）に感謝して頂ければ幸いかと思います。

白米はエネルギー源として非常に優れており、消化吸収が早く、集中力や持久力を必要とする勉強、スポーツに有効です。南小学校の児童の皆さんもたくさん米を食べてほしいものです。小学校の孫も毎日大人と同等以上にご飯を食っていますので、児童の皆さんも是非ご飯をしっかりと食べて下さるようお願いいたします。

最後に「環境にやさしい米づくり体験」に尽力されました関係各位に感謝申し上げますとともに、この学習が継続されることを願っております。

「米づくり体験を通して学ぶこと」

三国木部まちづくり協議会 会長 森下 喜文

三国南小学校の米づくり体験の田植えに参加させていただきました。その日は天気にも恵まれて、生徒さんが田んぼに入ると、泥の感触に声が上がります。植え始めると苗をまっすぐ植えるのに苦戦していました。みんな協力して田植えができたことは、貴重な体験になったと思います。

稲作体験では、自分たちで苗を植え、育て、収穫する体験を通して、お米ができるまでに多くの手間と時間がかかることを学び、収穫したお米を実際に食べることで、食べ物の大切さや自然のありがたさを感じてもらえると思います。また、作業に一生懸命がんばる生徒さんの姿は、私たち大人もたくさん元気をもらえると感じます。

このような体験を通して、子どもたちが将来の農業や自然環境について、関心を持つことを願います。

最後に関係者の皆さまのご協力に心より感謝申し上げます。今後も子供たちのために、取り組みお願いいたします。

「米づくりの体験を通じて環境について考えよう」

三国木部まちづくり協議会 環境部会長 東川 佳晴

今回も三国南小学校児童による米づくり体験として、田植えや稲刈りをしていただいたと思います。今回は以前まで行ってきたビオトープ公園の田んぼが再生工事で使用できませんので、三国木部ホテル研究所所長の田んぼで体験活動を行っていただきました。三国木部ホテル研究所所長、JA福井県や関係された多くの方々のお協力には大変ありがたく感謝申し上げます。

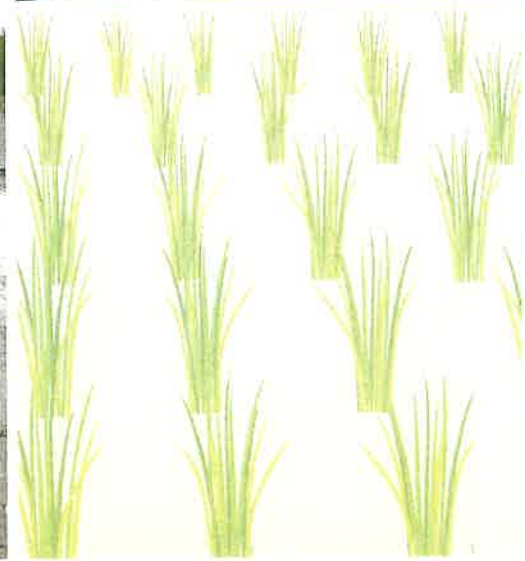
米は日本の主食であり、米づくりは食料自給率の点からも大変重要なもので、なくてはならないものです。その米づくりは土壌、水、気温などの環境により影響を受けます。また米づくりにより環境に良い影響も、農薬、化学肥料、温室効果ガスなどの悪い影響も与えます。近年米づくりにおいては農薬や化学肥料を減らす環境に配慮したものに変わってきています。これにより生き物が生きやすい環境に少しずつ変わりつつあります。まだ温暖化など難しい環境問題は課題として多く残されていますが、今回米づくり体験で感じた水・泥・苗・稲などとのふれあい感覚を大切にして環境を考えることにつながればと思います。

最後に今後ビオトープ公園でホテルが生きやすい環境となり、ホテルがたくさん舞うのを見られることを期待し、米づくり体験が今後も継続されることを願います。



田植え











稲刈り

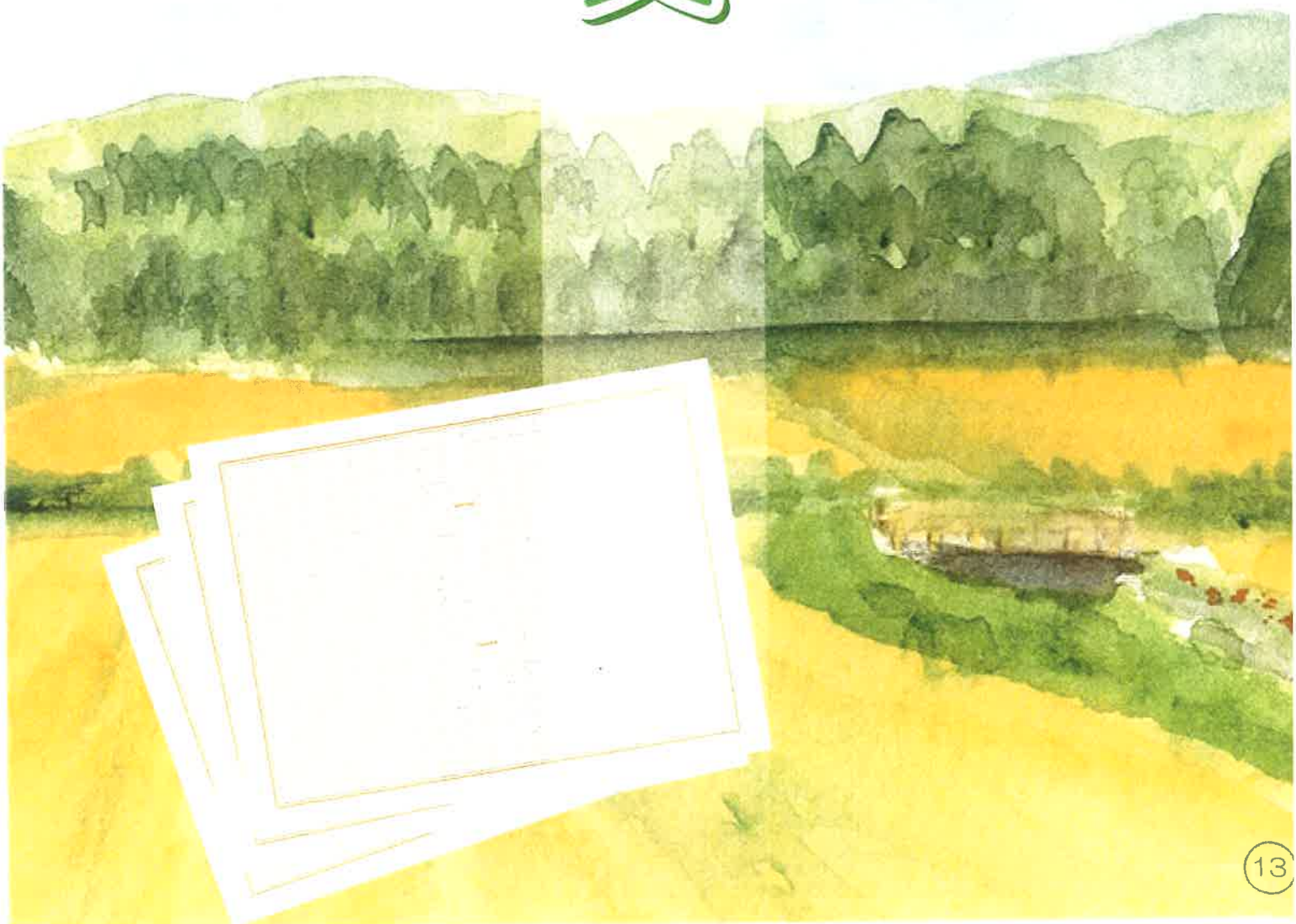








思い出作文





浅岡 祐杜

初めての田植え体験をして、田植えがとても大変なことが分かりました。実さいにやってみると深く歩くのがとても大変でした。でもなれてくると楽しいと感じるようになってきました。上手にできたのでとても楽しかったです。とてもいい思い出になりました。

石丸 侑采

わたしは稲刈りをしてみて農家の人はとても大変だなと思いました。稲刈りの仕事の中でお米を束ねることが一番むずかしかったです。田植えも稲刈りもどちらも大変だと思いました。稲刈りをしていて、終わるととても達成感をえることができました。

伊藤 理仁

ぼくは稲刈り体験をして、とても楽しかったです。理由はできなかつた稲を束ねることができたからです。できたときは心がすっきりして楽しかったです。稲はかわかしてからだっこくすることが分かりました。これからは、農家さんに感謝してご飯を食べたいと思いました。

内田 陽結

ぼくは、初めて田植えを体験しました。田植えを体験してみて、はじめは、なえをうるのがむずかしかったけど、中からなれてきてはやくできるようになりました。初めて田植えを体験してみても大変でした。なえが成長して、秋に米をたくさんつけてほしいです。

江端 粹

稲刈りを体験して昔の人は苦勞しながらもがんばって手作業でやっていたことを知りました。稲刈りでは稲を切つてむすぶのがとても大変でした。しかし、だんだんやっていくうちにコツをつかんでできるようになりました。来年もまたやってみたいです。

王 芝凝

わたしは田植えを体験して初めての感覚を楽しめました。どろの中にくつ下で入ったのは初めてだったので田植えを体験できて良かったです。田植えをする前は心配していたけど体験してみると、心配がなくなって考えていたことと体験したことが全くちがっていました。



岡田 大嗣

初めての稲刈りで、最初はあまり上手くできなくて心配だったけど、たくさんするうちに上手くできるようになってきてよかったです。特にむずかしかったのが、はさがけでした。稲刈りをしてみてぼくは、農家の人達がどれだけ大変なのが分かりました。

小島 拓己

ぼくが、稲刈りを体験して感じたことは、機械を使わない稲刈りもいいなと感じたことです。理由は、昔ながらのやり方で、あせだくになりながら稲刈りをするのに口マシを感じたからです。米づくりには、たくさん苦労がまつているので、お米を大切にしたいです。

小林 絢華

初めての田植えで、最初は上手にできるか心配でした。説明を聞き、実際に田んぼに入ったら、土でどろどろになって昔の人はこんなに大変なことをずっと一日中していたことがすごいと思いました。これから夏と秋に成長していくのが楽しみです。

斉藤 朝大

いね刈りを体験して昔の人は大変な作業を何時間もしていたんだなと思いました。いねを一束四本刈って結ぶのが大変な作業でした。はさがけでいねをかけるのがむずかしかったです。だっこくではいねを手からはなしそうでした。今も昔もとてもすごいと思いました。

千地丸 和輝

ぼくは田植えといねかりをして分かったことがあります。それは、とても体力が必要だということです。しかし、田植えやいねかりなどをやっている人はほぼお年よりの人たちだったのでびっくりしました。やってみてつかれたので実際にやっている人はすごいと思いました。

北嶋 柊哉

はじめて稲刈りを体験しました。はじめてなのできんちょうしました。やってみると楽しかったです。特に稲をかりとるのが楽しかったです。なぜかというところ、かまでかりとるのは、とても気持ちよかったです。稲刈り体験は、楽しかったです。



小寺 美沙緒

わたしは、稲刈りが大変でした。初めてやったのでむずかしかったです。昔の人は、全部手作業でやっていたというのを聞いて、とても苦労していたんだなと思いました。うまくできなかったけど、だっこくの機械は昔から使っていると聞いてすごくおどろきました。

西川 愛純

田植え体験をして学んだことは、お米ができるまでの農業の人の大変さです。足を入れるとぬるぬるしていてくつしたがぬげました。服もピンクだったのがまっ茶色になりました。田植えだけでこんなに大変だと知って、こんどからはお米を大切に食べたいと思いました。

野崎 千晴

田植えでなえを植えるときにねっこが少なかったことがあるのでむずかしかったです。なえを植えるときになえを植える線が消えていたところがあつたので大変でした。田植えをすることが大変なことがわかつたのでお米は大切にしていきたいと思いました。

竹澤 良亮

初めてのいねかりだからとても楽しみにしていました。説明を聞き、三ばんで作業をしました。作業では、いねの束をかける「はさがけ」機械を使う「だっこく」「いねかり」をしました。全部むずかしかつたけど、だんだんなれてきました。いねかりができて良かったです。

大権 皇利

ぼくは、田植えをする前はやりたくなかつたけどやってみると水が多いことはうまくいかなかつたけれど、他のところはうまくいってまたやりたいと思いました。今は機械があるけど手作業でやってみて米作りの大変さがわかつたのでこれからもお米を残さず食べたいです。

大権 天利

初めての田植えで、田んぼに入った時はグニャツとしていました。いねを植えはじめて田んぼの半分ぐらいまでいねを植えてうしろをみると、植えたいねがよれよれになっていたので、大変だったけど、失敗したところを直せるようにまたリベンジしたいと思いました。



森岡 由衣

わたしが、田植え体験をして思ったことは、田んぼに入
て苗を手で植えることは、思った以上に大変だということ
です。苗を手で小さくちぎることが少しむずかしかったです。
たんぼに入ると思っていたよりも深くてびっくりしました。

中出 真功

ぼくは稲刈り体験をして、昔の人の苦勞が分かりました。
また、今は機械でできるけれど、昔は手作業だったのでと
ても大変だと思いました。このようなことからぼくは稲刈
り体験をして昔の人達の苦勞を知ることができました。

西川 陸

ぼくは、田植え体験をしてみても、初めに思ったことはく
つ下で田んぼの中に入ると大変だということです。体験し
て学んだことは、なえを取るときは根っこごと取るとい
うことです。

名村 恋祈

稲刈りでは、説明を聞いて、お手本でやっているのを見
ると、手をすばやく動かして、とても早く終わっていてびっ
くりしました。実さいにやってみるとお手本みたいに早く
動かせなかったです。お米を作るのは、大変だと気づくこ
とができました。

長谷川 なぎさ

いねかりを見学して思ったことは、いねをかるのにあれ
ぐらい大変なんだということです。機械を最後に使うのを
見たらすいすいできていてすごいなと思いました。わた
しは、体験ができなかったけど、農業の人たちは大変とい
うことがよく分かりました。

林 蓮之助

ぼくが稲刈りを体験してみても、むずかしかったことは、
稲刈りをして最後にむすぶところです。最初は苦勞してい
たけど、JAの人たちが教えてくださったので自分ででき
るようになりました。お米を食べることができるとは、た
くさんの人のおかげなので感謝して食べたいです。

藤田 泰誠

ぼくは、稲刈り体験をしました。まず最初に稲を刈りま
した。一束の稲を八刈割って、中から二、三本とって稲の
束をむすびました。次に、稲の束をはさがけしました。最
後に稲の束をだっこしました。ぼくは、昔の人の米づく
りは大変なんだと思いました。



藤田 侑心

わたしは、初めて田植えを体験してみると土の中に入った時は冷たくて、田植えも楽しかったです。でも、ずっと土の中に入っているとあたたかくなってきて、足もつかれました。だけど、友達と話しながらなえを植えたので楽しかったです。またやりたいと思いました。

前田 慶次朗

なかなか切れない稲がありました。かまを使って稲を切ったのが楽しかったです。米をとる機械はちよつと力が必要なので、力を入れました。意外と簡単だったけれど、機械をまわすのがむずかしかったです。これからは感謝してお米などを食べたいです。

前田 陽大

田んぼに足を入れると、ヌルヌルしておまけにしりもちをついてしまいました。祖父がお米を作っているの。今日の体験で大変だということが分かりました。これから作ってくれる人への感しゃを持ってお米を食べたいと思いました。

八木 るいと

初めて田植えをして最初は少し気持ち悪そうだったけど一回入ると少し足がひんやりして、暑かったので少し気持ちよかったです。くつ下で入るとぬくのがむずかしかったです。やってみて、こんなにも苦労していたということが分かりました。これからも感謝して食べたいです。

丸井 ゆう人

初めてのいねかりだったので、何ガなんの道具かが最初は分かりませんでした。でもやり方を教えてもらおうと使い方に気をつけて楽しく作業ができました。昔と今の機械を使い比べて見るとどれだけ楽になったのか分かったのでこれからも農作業を続けてほしいと思いました。

南 優希

ぼくは初めて田植えをしました。最初はどうやってお米を作るんだろうと思っていましたが、出前授業で教えていただいたので、お米のことがくわしく分かりました。田植え体験でどろに入ってみましたが、最初は気持ち悪かったけど後あとになってからどろになれてきました。

… 私たちも児童の米づくりを応援しています …



三国支店 〒913-0021 福井県坂井市三国町楽円 54-4-2
TEL.0776-82-0344 FAX.0776-82-0417

農事組合法人

みのり会

代表理事

橋爪裕治

〒913-0021
福井県坂井市三国町油屋22-16
TEL : 0776-82-4239
FAX : 0776-82-7990



さんさん池見
SunSun Ikemi

農業法人 有限会社

さんさん池見

〒913-0024 坂井市三国町池見115-1
TEL : 0776-82-3345
FAX : 0776-82-3343
E-mail : okome@sansanikemi.jp

農事組合法人
アグリ川崎

〒913-0025
福井県坂井市三国町川崎 111-1
TEL : 0776-58-7090
E-mail : agurikawasaki@gmail.com

みんなで力を合わせた米づくり体験集

発行日 2025年4月

編集・発行 坂井市立三国南小学校 / JA 福井県三国支店 / JA 福井県坂井青壮年部三国地区三国支部 / 三国東部まちづくり協議会 / 三国木部まちづくり協議会